

## 事業完了報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 令和8年2月20日
調査研究事項	I. 教育課程、教育環境整備に関すること
調査研究のねらい	<p>① 「ICT教育の充実」 外国籍生徒の学習を支援するために、ICT機器やデジタル教材を活用した効果的な指導方法を研究し、学習活動の充実を図る。</p> <p>② 「日本語指導の充実」 日本語学級が設置されていない本校において、日本語指導を効果的に実施し、各教科の学力向上と授業の質の向上を目指す。</p>
調査研究の成果	<p>① 「ICT教育の充実」 今年度は、ICTを活用した教育の充実を図るため「すららネット」より講師を招聘し、初級日本語(JLPT N5・N4レベル) ICTツールの紹介および活用方法について研修を実施した。研修では、日本語が母語ではない生徒の日本語習得段階に応じた個別最適化学習の事例や、他の夜間学級における実践例が紹介され、本講におけるICT活用の可能性について具体的な示唆を得ることができた。</p> <p>特に、基礎的な語彙や文型の反復学習や自学自習を支援する機能は、日本語力の差が大きい夜間学級において重要であると考えられ、今後の導入に向けた検討を進めている。</p> <p>② 「日本語指導の充実」 日本語指導の充実を目的として夜間学級に長く在籍していた元教員を招聘し、日本語指導に関する研修を実施した。研修では、助詞についての指導の具体的な方法や会話力向上を目指した独自教材の作成、さらに日本語教材「大地」を活用した学習の効果的な進め方について紹介がされた。</p> <p>実践的な指導例を通して、初級段階の学習者に対する指導の工夫や継続的な言語習得を支える授業設計について理解を深めることができた。</p> <p>これらの取組みにより、教員の日本語指導力およびICT活用に対する理解が向上し、より多様な学習者に対応できる授業づくりへの意識が高まった。一方で、今後の課題として、デジタルとアナログを効果的に組み合わせた授業設計や、日本語力の個人差に対応する指導体制のさらなる整備が求められる。</p> <p>また、夜間学級の実態上、生徒の入れ替わりが多く、継続的な学習支援</p>

<p>および教育相談体制の充実が引き続き重要である。校内OJTの機会を確保し、夜間学級の経験が少ない教員への支援を強化するとともに、他校との連携を通じて実践の共有を図ることが今後の課題である。</p>
--